

## 事後評価シート

調査研究課題名	団塊ジュニア世代の住宅ニーズに関する調査研究
担当者	主任研究官 長野幸司、主任研究官 奥原崇 研究官 諸岡昌浩
当初目標と目標達成度	当初は住宅に関する需要と供給のギャップを網羅的に把握する調査を企図していたが、総花的、平均的なニーズを抽出するより焦点を絞る方が有意義であろうことから、首都圏の団塊ジュニア世代の住宅ニーズに特化した調査に限定したものとした。
調査研究内容の妥当性	団塊ジュニア世代に関して巷間言われている特性について、多くの点で確認がなされ、今後の施策立案の立脚点として有意義な調査になったと考える。
調査研究の仕組みの妥当性	本調査研究では、文献調査を踏まえて、首都圏の団塊ジュニア世代の住宅ニーズについてネットアンケートを行った。対面方式や郵送方式に比べて、「ネットを利用する環境にある」というサンプルへの条件がかかるものの、本研究の対象世代においては大きな問題とは考えられず、多くのサンプルによるアンケートができた。よって調査研究の仕組みは妥当であったと考える
成果と活用	団塊ジュニア世代に関して、単身者の都心指向，既婚者の近郊指向・親との近居指向などが確認できた。あわせて、住宅と関連の深い事項を中心に団塊ジュニア世代のライフスタイルを把握した結果，今後の住宅政策をはじめとする国土交通政策に関する基礎情報の一つとして活用されると考えている。
その他	
意見	成果と活用をもっと細かく 書き直した。 政策ニーズとの関係が見えてこない。「概要」と「おわりに」に住宅政策との関係を記載した。 補論はいかがなものか？ 第 部，第 部とした。